愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	舩木 恵一	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

後期の演習は、前期の取組をさらに進化させ、グループや個人が設定したテーマについて主体的な研究活動を行う。演習活動を通じて進路選定や就活に向けた準備計画を設計する。個人研究として卒業論文テーマの設定と概要整理、項目の洗い出しを行い。研究執筆計画をたてる。後期末には演習としての活動成果を発表する。原則として対面による演習（アクティブラーニング）を主体とします。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	後期においても、①内外のケースメソッド学習と発表（知識・技能の習得）、②グループ討議やディベート（思考力・表現力の強化）、③学生自身のテーマ設定による研究（主体性の維持）を交互に行い、後期終了時点において、個人研究の項目設定（卒業論文テーマ設定）までをゴールにします。個人研究・進路選択・卒業論文テーマなどのディスカッションや指導を行います。また他ゼミとの共同取組も企画します。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション～後期演習活動の確認	夏季行動の成果報告、後期演習における学生の到達目標設定、アクティブラーニングを中心とする各回のテーマ討議、他ゼミ交流や課外活動計画の立案、各個人の後期終了時の単位取得目標の確認。②	□
第2回	体験したいイベント、交流、課外活動、グループ研究等のアイデアブレーンストーミング （個人面談と併用、面談内容は学習課題、進路、論文）	グループに分かれて、後期にて取組む活動のアイデア整理を行い、その後全員にて、具体的な取組方法などの方針を協議します。また演習時間を利用して教員が学生と個人面談を実施します。②	□
第3回	ブレーンストーミングの整理、具体化と日程化 （個人面談と併用）	演習全体では前週に設計した活動方針にもとづいて優先順位や各自の役割分担を含む取組の具体化・日程化します。また引き続き演習時間を利用して教員は各学生と個人面談を実施します。②	□
第4回	体験したいイベント、交流、課外活動、グループ研究等の計画化 （個人面談と併用）	演習全体で設計した具体化・日程化を整理して計画としてまとめます（5WIH）。また引き続き演習時間を利用して教員は各学生と個人面談を実施します。②	□
第5回	学生発表	第2週から第4週の取組の成果（5W1H）発表 ③	□
第6回	計画に沿った活動の実施・同時に他ゼミとの共同活動を予定	計画に沿って研究活動（グループ・個人）を行う 他ゼミと商品プロモーションに挑戦（仮）	□
第7回	計画に沿った活動の実施・同時に他ゼミとの共同活動を予定	計画に沿って研究活動（グループ・個人）を行う 他ゼミと商品プロモーションに挑戦（仮）	□
第8回	計画に沿った活動の実施・同時に他ゼミとの共同活動を予定	計画に沿って研究活動（グループ・個人）を行う 他ゼミと商品プロモーションに挑戦（仮）	□
第9回	計画に沿った活動の実施・同時に課外活動を予定	計画に沿って研究活動（グループ・個人）を行う 課外活動（外部施設訪問などを想定）	□
第10回	学生発表	研究活動、他ゼミとの交流活動、課外活動の成果発表	□
第11回	専門演習発表大会の準備	演習発表大会への取組の準備を行う　②と③	□
第12回	専門演習発表大会の準備	演習発表大会への取組の準備を行う　②と③	□
第13回	専門演習発表大会の準備	演習発表大会のリハーサルを行う　③	□
第14回	専門演習発表大会に参加（当日）	専門演習発表大会にて、活動報告を行う　③	□
第15回	演習活動の総括	各自個人研究の進捗報告、進路（就活など）の活動状況などを報告し、ゼミ内で春季期間の行動について意見交換を行う　③	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

演習のテーマに関して授業前に予習や準備活動を行います（2時間程度）、演習終了後、課題の取組を通して演習内容の確認や関連知識を自ら補うなど、各自で復習を行い（2時間程度）、テーマに関する理解をさらに深め、自分の考え方を明確化します。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

LMSを通じて授業資料や課題の提出～添削や採点の上、返却します。講義時間内での質問に加え、チャットやメールでの質問を受け付けます。またオフィスアワーを利用して、研究室にて面談も可能です。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019地域ビジネスDP2	企業経営を社会全体との関連で幅広く思考し、多面的な判断の上、自分の考えを発信できる
主体性	◇ 2019地域ビジネスDP3	さまざまな個性・利点・問題点を抱える地域におけるビジネスを通じ、多様な人々と協働し、地域とつながり、地域社会の活性化・発展に貢献できる

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験とは出席点ではありません。アクティブラーニングの①～③の取組に関して、積極性・貢献性・自主的な役割分担の意思、成果として意見表明の表現力や、口頭発表の姿勢などの学修態度と、課題提出の状況（期限を守り、主題の意図理解、思考内容）を総合的に判断します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ありません。必要に応じて講師が用意します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		